新宮山彦ぐるーぷ第１９８７回－３

東北地方への遠征(鳥海山・岩木山・八甲田山)登山

「八甲田大岳」

◇実施日；２０１８年０８月２６日(日)～２９日(水)

◇参加者；川島　功、沖崎吉信、児嶋道夫、大江加予子、徳子、畑林清子、生熊千満子、上村洋司・和美、生駒純子、中前道康・余志子、松本　栄、中西陽子、樋口義也、高階鈴子・美根子、奥村順夫、竹中卓治、三井幹雄、野崎　肇、石橋哲郎・隆子、アラン・モス、椎木　尭・照子。梶野照雄(28～29)。　２７名、

添乗員；和歌山・新日本旅行　中西和子。

８月２９日(火)　曇り一時晴、尾根は一時濃霧

八甲田山は、八甲田山と名のついた単独峰は存在せず、１８の成層火山と溶岩円頂丘で構成される火山群で、命名の由来は、「新撰陸奥国志」によれば、**八**つ(たくさんの)、**甲**(たて)状の峰と山上に多くの**田**代(湿原)があるからだという。最高峰は、八甲田大岳(一等・点名；八甲田山・1584.5m)である。又、明治３５年に歩兵第５連隊が雪中行軍の演習中に210中199名が寒さと吹雪で遭難した事で良く知られている。

出発前に無償提供して下さった木箱リンゴは、昨日ホテル到着時に２個、今朝も２個の計４個各自に配布された。

ホテルを８時前に出発。コース概略と山頂公園駅から八甲田大岳へ登る班と田茂萢・毛無岱を経る班にする旨の説明がある。

国道102号線から394号線を走行し、城ヶ倉大橋手前で降りて歩いて渡り眼下の城ヶ倉渓谷を眺望し足慣らしをする。八甲田大岳が望まれたが、雲で山頂は見えなかった。

国道103号線に左折して、八甲田ロープウェイ山麓駅(660m)に到着、９時２０分発のゴンドラリフト(定員101名)に乗り木程なく、約10分で山頂公園駅(標高1300m)へ。

ホテルからの岩木山

城ヶ倉大橋渡る

雲に覆われた八甲田大岳

八甲田山麓駅

ゴンドラに乗る

山頂公園案内板前で

赤倉岳→八甲田大岳往復→毛無岱→酸ヶ湯コース

このコースには、川島・樋口・児嶋・上村夫妻・生熊・畑林・高階姉妹・竹中・中西・三井・野崎・梶野・アラン・椎木夫妻の１７名。

山頂公園駅から木道を歩き、田茂萢湿原展望台へ。広い湿原を隔て字に巡るが、左寄りに辿り田茂萢岳(1324m)と湿原は、８の て赤倉岳から八甲田大岳の山並みが見られる雄大な風景である。毛無岱・酸ヶ湯への分岐を過ぎると、湿原から流れる小沢を横

切り、赤倉岳への緩やかな山裾を辿る。

田茂萢(ちや)湿原と八甲田大岳を望む

湿原展望台

道の傍は、根曲がり竹の中にアオモリトドマツが茂り視界が無くひたすら登り、赤倉岳への尾根中腹付近になるとハイマツ等の低い潅木帯になり視界が広がり小休止。振り返ると山頂公園駅・田茂萢岳(1324m)と湿原や前嶽(1252m)が一望された。

田茂萢湿原案内板

赤倉岳中腹からの田茂萢岳

赤倉岳上りで小休止

急な木製土留段差に咲くイワギキョウを見ながら登り、溶岩混ざりの緩やかな尾根を登りきると、木柵に囲まれた赤倉岳北峰(1521m)である。火口の断崖が良く望まれる。

赤倉岳北峰への上り

赤倉岳北峰にて

火口断崖

赤倉岳北峰から少し歩いて、ハイマツ尾根を登った赤倉岳山頂(1548m)に石祠が祭られていた。この頃からガスがかかり視界は悪くなり周りが見えなくなり、井戸岳(1452m)山頂の手前からジグザグの桟木に沿って、滑りやすいガラ場道を下降する。

赤倉岳・石祠

火口尾根を歩く

井戸岳案内板

やや平坦な尾根を少し辿ると最低鞍部に、大岳ヒユッテ(避難小屋)が在り11時30分に到着。この辺りは豪雪地帯なので、避難小屋の2階扉の上にも出入り口がある。

大岳ヒュッテ避難小屋

避難小屋前で昼食

八甲田大岳への上り

避難小屋前で昼食を少し食べる。山頂を往復して毛無岱を経て酸ヶ湯へ下ると１５時頃になる。山頂より下らず仙人岱を経て酸ヶ湯へ下れば約３０分は早く着くとのことであるが、毛無岱湿原は始めて見る方も多いので計画通りのコース班と山頂から仙人岱を経て酸ヶ湯へ下る班(樋口・梶野・竹中)に分かれる事にする。昼食を程々にして八甲田大岳へ。

　潅木帯の掘れ込んだ登山道を登り、溶岩の斜面になりジグザグに標高差約 150mm の急斜面を登るとガスで覆われた八甲田大岳山頂(一等三角点、点名;八甲田山 1584.5m)に到着。

一等・八甲田山

八甲田大岳標識(下に)

標識を持参紐で直す

八甲田大岳の標識板が下に置かれている。早速、梶野氏は黒いビニール紐を出して上部で結わえる。山彦らしい行動である。

　修復した山頂標識板の前で記念撮影。天候が良ければ３６０度の眺望があるのだが・・・山頂で３人と別れて本隊は避難小屋へ下る。避難小屋前で昼食の残りを食べるなど約１０分休憩。

　先頭は畑林さん、小屋よりほんの少し下るとベンチがあり大岳山頂が望める所なのであろう。これより樹林帯の掘れ込んだ道を約３０分下ると、木道があり湿地上部に出る。アランさん少し遅れ気味で待機、振り返ると八甲田大岳山頂には雲がある。

避難小屋に戻る

避難小屋前ベンチで休憩

湿地上部に下る

振り返った八甲田大岳

上毛無岱と木道

この地点より再び下ると。程なく田茂萢湿原からの分岐があり、上毛無岱湿原となりに木道を辿り、上毛無岱展望台で小休止。

上毛無岱から下毛無岱へは２８１段の木製階段を下る。この階段からの下毛無岱の眺めが本当に素晴らしい。

丸池

上毛無岱展望台

階段から下毛無岱を望む

下毛無岱展望台

湿原木道を辿る

酸ヶ湯温泉に到着

温泉の硫黄臭が漂う下毛無岱展望台で最後の小休止をして湿原を後にする。木道が無くなり、緩やかに山裾を捲く様に辿り、小沢を渡る度に少し登り、緩やかな山道を下って城ヶ倉温泉分岐を過ぎると、程なく車の音が聞こえる様になり、最後の急な湯坂を下り酸ヶ湯温泉駐車場に予定より４０分遅れの１４時４０分に１４名が無事下山。

早速、男女混浴の酸ヶ湯温泉に入浴、男女入口は別々である。男性側の温泉浴槽廻りには。石鹸・シャワーが無い、冷水で頭を洗い、浴槽に浸かり体の汗を流す。女性側には石鹸等が備えられていたとのこと。飛行機で帰宅の服装に着替えパッキングする。

予定より約１時間遅れたので。雪中行軍資料館の見学を止め、青森空港へ直行する。椎木夫妻は、明日から恐山等を訪ねるために青森空港で別れる。

青森空港内で各自が土産物や食事をして、青森空港１８時２５分発に乗り、伊丹空港に１９時５５分着、手荷物を受取り関西方面の参加者と此処で別れる。

新宮組と尾鷲・海山組は、伊勢道・安濃SAで流れ解散とする。

青森空港内で待機

大阪上空の夜景

伊丹空港で車待ち

最後に、鳥海山には２６名全員。岩木山には２５名、八甲田大岳には１７名が、無事登頂した。

ガスがかかる日もあったが、３日間雨に降られず、会友の普段の活動による体力維持の賜物であり、東北遠征登山は、全員無事に下山・帰宅され、成功裡に終えた事が一番喜ばしい事である。

行動タイム

アートホテル7:55→8:50城ヶ倉大橋→9:10八甲田山麓駅9:20→9:30山頂公園駅9:35→10:00田茂萢湿原→10:10毛無岱・酸ヶ湯分岐→10:50赤倉岳北峰11:00→11:05赤倉岳(石祠)→11:15井戸岳→11:30大岳ヒユッテ(避難小屋11:45→12:10八甲田大岳12:20→12:35大岳ヒユッテ12:45→13:25上毛無岱展望台→13:45下毛無岱展望台→14:40酸ヶ湯温泉15:35→16:30青森空港18:25→JAL2158→19:55伊丹空港20:25→20:30中国道・豊中IC→21:50伊勢道。安濃SA→23:00紀勢・大内山→24:10新宮。

(記：川島、写真：野崎・梶野・川島)

八甲田大岳→～八甲田清水・仙人岱→酸ケ湯登山口

八甲田大岳の山頂で、毛無岱へ下るメンバーと別れ、樋口、竹中、梶野の3名は、八甲田清水・仙人岱を経て酸ケ湯登山口へ下山を始めた。

八甲田大岳山頂にて

鏡沼

平坦になって休憩

高田大岳分岐

八甲田清水

このルートは百名山を目指す人の殆どがピストンするルート

で、それなりに整備もされているが、岩が多くて急な登りが続く所もあって、登るとしんどいルートだ。しかし、今日は下りだけなのでそんなにしんどいことはないと思う。

山頂から5分ほどで鏡沼に着く。この頃からガスが濃くなって、ついさっき迄見えた大岳の山頂は見えなくなってしまった。

八甲田清水

仙人岱

火山性ガス噴出帯

岩を詰め込んだ鉄網に囲まれた、火山岩の登山道を30分ほど歩いてようやく平坦な場所に出た。ここでしばらく休憩、手早く食事を済ます。ここから木道が現れ、歩きやすくなる。

高田大岳への分岐を過ぎて、八甲田清水で休憩。木製の枠の中から湧き出しているようで、大変冷たく10秒ほど手を入れると指先がしびれてきた。

すぐ傍が仙人岱だが「踏み荒らされて消滅した」と表示されていた。

木道が無くなり、谷筋を下るようになる。すぐに火山性ガスの噴出地帯に到着。ガスと斜面上からの落石に注意しながら素早く通り過ぎた。

地獄湯の沢

南八甲田を望む

酸ケ湯登山口に下山

酸ケ湯迄1.2㎞の地点で最後の休憩、この辺りはぬかるんだ場所が多くて、靴がドロドロになった。道幅が広くなり歩きやすくなると、登山口の鳥居が見えて、酸ケ湯登山口に到着、ほぼ同時に田茂萢岳から毛無岱経由で降りた沖﨑さんから「今どこ？」と電話があった。

行動タイム

八甲田大岳12:15→鏡沼12:22→高田大岳分岐13:00→八甲田清水・仙人岱13:05→地獄湯の沢13:20→酸ケ湯登山口14:15→14:20酸ケ湯温泉。

（記：梶野）

田茂萢岳→毛無岱→酸ヶ湯コース

朝起きると、どうも腰に違和感がある。どうしたものかと思案しながらバスに乗込む。

今日は最終日であり飛行機は待ってくれない、何かあっては皆様に迷惑をかけるし自分もつらいので、ショートカットする楽ちんコースを決断する。

バスの中で、明治３５年八甲田雪中行軍で新宮水野家第１５代当主になるはずだった水野忠宣(よろし)２６歳が、命を散らした話をさせて貰った後、楽ちんコース(大岳山頂へ行かず毛無岱を経て酸ヶ湯へ下る)参加者を募ったところ、自分を含め１０名(沖﨑・奥村・大江親子・中前夫婦・生駒・松本・石橋夫婦)の参加者がある。

山頂公園駅で本隊を見送り１０人は、酸ヶ湯を目指し９時４０分にスタートする。直ぐの分岐で一座だけでも登ろうと田茂萢岳(1324m)経由コースをとる。

山頂公園駅から田茂萢岳へ

途中、語り部さんからこの先の右折コースは、道が荒れていて「足元注意」する様アドバイスをいただいた。

入ってすぐ実感する、水が流れた為か、えぐれた状態でゴロゴロと石が点在、段差もきつく左右からの笹が倒れこんでくる。おまけに足許もぬかるんで足の置場に気をつかう。

木道を辿る

田茂萢湿原展望台を望む

毛無岱・酸ヶ湯分岐

上毛無岱へ

４０分位で大岳からの道と合流し、３００段近い木段を降りて毛無岱に入る。

紀伊半島には絶対に無い景色である

深田久弥は「これほど美しい高原は滅多にない、豪華なジュータンを敷いたようなその原には可憐な沼が幾つも点在し、その脇には形のいいハイ松が枝を拡げている。周囲には丈の低いアオモリトドマツが風情を添え、その結構な布置といい、背景の効果と

いい、まことに神の工(たくみ)を尽くした名園のおもむきである」と書いている。

上毛無岱の木道散策

上毛無岱展望台で

上毛無岱展望台

下毛無岱への木段から

慌てることはない時間はたっぷりある。途中のベンチで大休憩や昼食で堪能したあと、12時頃酸ヶ湯へ下山し、酸ヶ湯温泉に13時過ぎに下山した。

可憐な沼

下毛無岱木道辿る

酸ヶ湯温泉へ

行動タイム

山頂公園駅9:40→10:00田茂萢岳→10:10分岐→10:45大岳と酸ヶ湯分岐→11:20毛無岱ベンチ(昼食)11:45→13:05酸ヶ湯温泉。

(記：沖﨑、写真：大江徳)

東北地方遠征登山ツアー会計報告

実施日；平成３０年８月２６日(日)～８月２９日(水)

収　　入		収　　出	
内　　訳	金　額	内　　訳	金　額
参加会費		新日本旅行(内訳下記)	
会費(24名)@130,000	3,120,000	航空機料金(往復)	1,300,000
椎木夫妻(2名)@110,000	220,000	貸切バス料金(有料道路料金・	680,316
梶野氏	20,000	・駐車料金・運転手宿泊代含む)	
		宿泊代(遊楽里・ホテル大館	884,780
		アートホテル、津軽三味線)	
寄付金(玉岡憲明)	10,000	旅行保険料	15,500
		ロープウェイリフト代	67,600
		8/26遊楽里飲料代	18,144
		8/28「あいや」飲料代	25,002
		玉岡氏土産代	4,000
合　計	3,370,000		2,993,342
余剰金			376,658

◇一人当たり払戻金は、376,658÷26名＝**14,486円/人**

◇新宮、尾鷲・海山組(19名)の一人当たり払戻金は、**6,781円/人**

車４台分(30,000/台×4台)=120,000＋駐車料金(4台)26,400＝

146,400÷19名＝7,705円/人。14,486ー7,705＝6,781円/人

◇実質払戻金

(注)一人当たりの実質払戻金は、下３桁については、事務費(郵送・

・コピー費等)に充当させて頂きますので、ご了承下さい。

・**空港集合組**(石橋夫妻・椎木夫妻・三井・野崎・アラン)**14,000円/人**

・**新宮、尾鷲・海山組；6,000円/人**

会計；沖崎吉信